

早いもので今年も最終月になりました。師走の文字通りとても慌しい月ですが、お庭管理も今年のうちに来ることをやっけてしましましょう。本誌では今月に出来るお庭作業として庭木、草花の管理、また、最近施工したお庭などを紹介しております。

12月の庭作業

① 庭木の管理

落葉樹の植え付け、植え替え、剪定の適期です。とくに整枝・剪定は、葉が落ちて枝の様子がよくわかるこの時期を逃さずに行いましょう。(ただし春に花が咲く木では、花芽を落とさないように注意が必要です)また休眠状態にあるので、落葉樹の強剪定(強く刈り込むこと)も冬の間に適しています。太い枝を切った後は、カルス(植物が持つ、傷口を塞ぐ働きのある組織)の形成を助ける癒合剤を塗布しておくとい良いでしょう。冬の寒風は乾燥しています。鉢植え管理の庭木は、鉢土が乾いていたら暖かい午前中にたっぷり水やりを。また、庭に散った落ち葉はかき集めて、腐葉土や堆肥作りに役立てましょう。バラは大苗の植え付け適期です。鉢植え管理のものも、この時期は土の入れ替え適期となります。植え付けて2~3年経ったものは、新しい土に入れ替えてあげましょう。また地植えで既に植わっているものを植え替える場合も、休眠期の中に済ませてしましましょう。ただしバラは※厭地(いやち・忌地)性があるので、以前バラが植わっていた場所に植えるときは植え穴を掘ったら別の新しい土を入れて植え付けをします。いずれも株元には、冬の乾燥防止と防寒を兼ねるマルチングをお忘れなく。特にバラは乾燥に弱いので、鉢植えの場合は水やりを忘れないようにしましょう。また元肥として、緩効性肥料を株元に施しておきます。バラもその他の庭木も、休眠期に入ると多少強い薬剤をかけても薬害が出にくくなります。石灰硫黄合剤などを使う場合は、この休眠期に散布するようにします。カイガラムシは放置しておくとならぬ病やコウヤク病の発生源となるので、できるだけ擦り落として薬剤を散布しましょう。

※厭地性…同じ植物や同じ科の植物を同じ場所に何年も植え続けると、病害虫が多発したり植物の生育が悪くなること。また、その土地。連作障害ともいい、マメ科やナス科、ウリ科の植物に起こりやすい。一定の養分が不足することなどが原因。

② 草花の管理

霜が降りるころには、草花の葉は落ち、茎も枯れてしまします。霜を目安に、花壇の整理をしましょう。七夕のころに種まきをして育ててきたハボタンの苗は、寒くなると花芽ができて、葉色が赤みを帯びてきます。防寒してある苗ものは、雨が掛かりにくくなりますので、適度に水やりを行ってください。球根も、まだ芽は出ていませんが、根は伸びて活動を続けています。冬とはいえ、一定の水分を与えてやりましょう。乾燥し過ぎると、寒さに耐える力が衰えてしまします。気温が氷点下に下がる時期になったら、朝夕に水やりをすると凍ってしまうので、日中の暖かい時間に行うようにしてください。スイセン、チューリップ、ヒヤシンスなどの球根は、今から植えても、春の開花に間に合います。ただ、九月や十月に植えるときよりも少し浅めに植え付け、必ずマルチングをしておきましょう。

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。
お見積もり無料! 詳しくは新井までお問い合わせください。
TEL03-3855-8711 携帯電話080-3123-3250

ウラに続く

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。
お見積り無料！詳しくは新井までお問い合わせください。
TEL03-3855-8711 携帯電話080-3123-3250

③ 観葉植物の管理

この時期の観葉植物は、ほとんどが室内管理となります。水やりは葉のしおれ具合でタイミングを図っても良いのですが、過湿の場合でも同様に葉がしおれてくるので注意が必要です。葉の状態や土の乾き具合を確かめた上で、水やりをしましょう。空気も乾いていますので温湿計などを利用して湿度管理に注意を払い、適宜※葉水もしてあげると良いですね。また昼夜の温度変化が激しい場所では、トロ箱や段ボールなど身近な物を使って防寒対策を図りましょう。病虫害では、カイガラムシに注意します。室内の暖かい環境では、アブラムシが発生していることもあるので、水やりのときにでも枝葉の陰などもチェックするクセをつけておきましょう。

※葉水…葉に水を散布すること。根の機能が低下しているときに、株周辺の湿度を上昇させて乾燥を防止するために行うが、葉についたホコリや汚れの除去や、ハダニの予防も大きな目的のひとつ。

④ ハギの剪定

一般にハギは冬に地上部が多少とも枯れ、春に基部から萌芽します。そこで、冬の剪定は事実上、枯れ枝を処分するということになります。

⑤ 12月おすすめ植木

カンツバキ

Camellia hiemalis.

—常緑低木 —ツバキ科 —ツバキ属

【特性】

もともになった品種“獅子頭”を関東地方で寒椿と呼んだところから、ツバキの名がありますが、サザンカとツバキの種間雑種といわれています。幹が株元から分枝し、枝が横に広がるタイプをヒラカンツバキといい、直立して高くなるタイプはタチカンツバキといえます。サザンカらしく八重咲きで花卉も1枚ずつ散りますが、雄しべの基部がくっついていところはツバキに似ています。1年生枝の先端に開花し、年末から春先まで長く花が見られます。

最近の施工例

造園工事 工事日数3日

植木を処分し、御影石のピンコロで花壇を作り、石灰砂利を敷き、石段の周りには固まる土材を使用しました。見た目が綺麗になる上に雑草対策にもなっています。



1月号予告

1月の草花の管理

庭の防寒チェック

寒肥

ナツツバキ(シャラ)の剪定

1月のおすすめ植木

「ロウバイ」

外構工事、造園工事、お庭管理(剪定・消毒・施肥)工事お任せください。お見積り無料！！詳しくは新井までお問い合わせください。

モアガーデン造園事業部 担当 新井

住所: 足立区西伊興4-3-18モアガーデン

TEL: 03-3855-8711 FAX: 03-3855-8715

携帯: 080-3123-3250